

# 愛知県花き振興計画 2025

～花の王国あいちのパワーアップ～



2021年3月

# 目 次

<b>第1</b>	<b>はじめに</b>	<b>1</b>
1	計画の主旨	1
2	期間	1
<b>第2</b>	<b>花きを巡る状況</b>	<b>2</b>
1	生産	2
2	技術	4
3	流通	4
4	輸出	5
5	輸入	5
6	消費	5
<b>第3</b>	<b>花き産業の振興のための施策に関する事項</b>	<b>7</b>
1	生産者の経営の安定	7
(1)	経営体や生産者組織の育成強化	7
(2)	生産基盤の整備	7
(3)	知的財産の適切な保護及び活用	8
2	生産性及び品質の向上の促進	8
(1)	新品種の開発・導入とブランド化の推進	8
(2)	生産技術の開発と導入推進	9
(3)	流通施設の整備及び流通体制の改善	9
(4)	花きの加工に関する技術開発	10
(5)	育苗・苗供給体制の強化	10
3	輸出の促進	10
4	気候変動及び環境に配慮した適応策	11
<b>第4</b>	<b>花きの文化の振興のための施策に関する事項</b>	<b>12</b>
1	公共施設及びまちづくり等における花きの活用	12
2	花きを活用した教育及び地域における花きを活用した取組の推進	12
3	日常生活における花文化の定着	13
<b>第5</b>	<b>花きの需要拡大のための施策に関する事項</b>	<b>14</b>
1	花きの需要を拡大する取組支援	14
2	イベントにおける花きの活用の促進等	14
<b>第6</b>	<b>目標</b>	<b>15</b>
	<b>&lt;参考資料&gt;</b>	<b>16</b>
1	主要品目別の現状と課題及び重点推進方策	16
2	愛知県花き振興計画（仮称）策定検討会議設置要領	24

## 第1 はじめに

### 1 計画の主旨

「愛知県花き振興計画2025」（以下「振興計画」という。）は、花き産業と花きの文化の振興を目的とした「花きの振興に関する法律」（平成26年法律第102号。以下「花き振興法」という。）第4条に基づき、愛知県における花き産業及び花きの文化の振興に関する計画として愛知県が定めるものです。

また、振興計画は、「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」（平成16年県条例第3号）第7条に基づく「食と緑の基本計画2025」の花きに係わる個別計画とします。

振興計画における「花き」とは、花き振興法で定める花き（観賞の用に供される植物であり、具体的には、切り花類、鉢もの類、花壇用苗もの類、球根類、花木類、芝類、地被植物類）とします。

振興計画は、1962年以降連続して花き（「花きのうち、花木類、芝類、地被植物類を除くもの」（以下「切り花等」という。））産出額日本一を誇る「花の王国あいち」をさらにパワーアップさせていくために、県、生産者、農業団体や流通、小売、消費団体、県民が連携して取り組む、花きに関する施策の基本的な方針として策定したものです。

なお、花きのうち、花木類、芝類、地被植物類（以下「花木等」という。）については、「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」の趣旨を踏まえ、県が取り組む緑化推進の基本方向を示す第6次愛知県緑化基本計画である「あいちのみどり2025」（2021年3月策定）に委ねるものとします。

その他、農業水産局各課が作成する諸計画と連携しながら施策を進めていきます。

### 2 期間

振興計画の実施期間を2021年度（令和3年度）から5年間とし、2025年度（令和7年度）を目標年度とします。

## 第2 花きを巡る状況

### 1 生産

本県の花き産出額は、2018年で578億円（切り花等543億円、花木等35億円）となっています。産出額のピークである1998年897億円（切り花等763億円、花木等134億円）から年々減少し、2008年に発生したリーマンショックで大きく減少し、近年は500億円後半で推移してきました。

2020年には、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、価格の低下や需要の落ち込み等の要因により、産出額が大きく落ち込むことが想定されます。



出典：農林水産省 花木等生産状況調査

切り花等の産出額は、1962年から連続日本一を誇っており、2018年の543億円は全国シェアの16.3%を占め、第2位の千葉県や第3位の福岡県の産出額の約3倍となっています。また、キク、バラ、洋らん、観葉植物などの品目も全国一となっています。

<都道府県別花き産出額順位（2018年）>

順位	1位	2位	3位	4位	5位
都道府県	愛知県	千葉県	福岡県	埼玉県	静岡県
産出額	543億円	193億円	172億円	160億円	157億円
全国シェア	16.3%	5.8%	5.2%	4.8%	4.7%

出典：農林水産省 生産農業所得統計

2018年の花きの作付面積は1,918ha（切り花等1,554ha、花木等364ha）であり、ピークである2010年以降、横ばいから減少傾向が続いています。

### 作付面積の推移



出典：農林水産省 花木等生産状況調査

44歳以下の花きの生産者は、県内の全作物の中で23.1%（2019年5月1日現在）を占める。2018年の切り花等の生産者数は2,745戸となっており、生産者の高齢化や経営環境の悪化などから生産者数は年々減少の傾向となっています。

### 農家戸数の推移



出典：愛知県 花き生産実績

2018年の品目別の産出額によると、26品目が1億円以上であるなど、切り花、鉢物とも多種多様な品目が生産されていることが本県の特徴です。

また、本県産切り花等は、施設による安定的・計画的な栽培により品質やロットを確保するとともに、周年出荷を行うことにより市場段階では高い評価を得ており、市場での予約相対の割合も高く、価格面では、市場平均単価より高く取引されています。

<産出額1億円以上の品目>

切り花9品目：キク・カーネーション・バラ・ガーベラ・トルコギキョウ・スイートピー・デルフィニウム・アルストロメリア・グロリオサ

鉢物7品目：シクラメン・ベゴニア類・ポインセチア・ブーゲンビレア・あじさい・ポットカーネーション・ハイビスカス

観葉植物5品目：ポトス・ドラセナ類・アンズリウム・アナナス類・ヘデラ

洋らん4品目：シンビジウム・デンドロビウム・カトレア・ファレノプシス

花壇苗1品目：パンジー

## 2 技術

本県の試験研究機関においては、花きの生産性向上や品質向上を図るため、キク栽培におけるLED技術の開発、炭酸ガス施用技術や超微粒ミストによる高温対策技術の開発などを進めてきました。

また、試験研究機関と生産者が連携を図り、品質・生産性向上のための新技術及び新品種の開発を展開しています。県農業総合試験場で育成した品種のうち、輪ギク5品種、スプレーギク2品種、スプレーカーネーション5品種、クルクマ1品種、バラ1品種、フォーミダブル2品種の合計16品種が種苗登録、または出願公表中となっています（2021年3月現在）。



輪ギクの短茎多収栽培技術



農業総合試験場開発品種  
スプレーアイチ夏2号 アイセイカーラ

## 3 流通

国内花きの卸売市場経由率は75.0%（2017）と青果物と比べて高いものの減少傾向にあり、WEB販売を含めたセリ前販売の増加、販売範囲の広域化、市場間競争の激化が進んできています。愛知名港花き地方卸売市場では、全館空調による定温管理が実施され、鮮度保持に向けた整備はできたものの、生産地から小売店頭までの切れ目のないコールドチェーンには至っていません。

小売段階では、花き専門小売店が依然販売の中心であるものの、花き専門店から分化したチェーン店形式で店舗の拡大を図る大型専門店の出現や、ホームセンター、花

きを取り扱う食品スーパーや農産物直売所等が増加するとともに、インターネット販売などでの消費者の購入割合が増加してきています。また、小売店や大型スーパーが一部の生産者・市場と連携し、日持ち保証販売に取り組む動きがあります。

#### 4 輸出

日本の花きは、非常に多くの品目が生産されており、それぞれに手間をかけ、巧みな生産技術により同一品目でも外国産とは大きな品質差があるとされている一方で、生産コストや輸送コストが高く、輸出における価格競争では不利な条件にあります。

輸出額の大部分は植木・盆栽・鉢物が占めており、切り花については、絶対額は少ないものの、現地でのプロモーション活動により着実に増加しており、今後の輸出額の増加が期待できます。

こうした中、愛知豊明花き地方卸売市場を国産花きの輸出拠点市場として、中部国際空港からの輸出を拡大する取組が行われており、本県からは、多種類の鉢物類が香港向け（一部シンガポール）に輸出されています。また、切り花も他県の卸売市場によって輸出が行われています。

#### 5 輸入

花きの輸入は、切り花類が大半を占め、年々増加傾向にあり、2017年は国内出荷量37億本、輸入量13億4千本となっており、切り花の数量ベースの輸入割合は27%になっています。

本県主力品目では、キクがマレーシア、ベトナムなどから約3億本、バラがケニア、インドなどから約6千万本、カーネーションがコロンビア、中国などから約3億7千万本輸入されています。

主要な輸入相手国では、海外の資本・技術を導入して設備費や光熱費等のコストをかけず安価な花きを生産し、長期輸送を前提とした鮮度管理を徹底し市場や小売が要望する安定供給体制を整えていることから、輸入量・額とも増加の傾向にあります。

#### 6 消費

切り花の購入金額は長期的にみて減少していますが、近年やや下げ止まり傾向が見られます。県内での消費をみると、全国の県庁所在市の中で、名古屋市の1世帯あたり年間の切り花支出金額は、2020年で第35位であり、全国的には下位にとどまっています。

<東海4県の県庁所在市における花(切り花)の1世帯当たり年間の支出金額及び全国順位の推移>

区分	2018年	2019年	2020年
名古屋市	5,527円(43位)	7,509円(27位)	5,604円(35位)
岐阜市	10,162円(9位)	8,232円(19位)	7,353円(26位)
津市	9,289円(13位)	8,420円(15位)	8,031円(17位)
静岡市	8,301円(18位)	7,156円(29位)	4,150円(44位)

出典：総務省統計局 家計調査年報

花きは、冠婚葬祭、贈答用、装飾等暮らしの中で使われていますが、産地表示義務がないことから、他の野菜や果樹等と比べて生産地に対する消費者の関心は高くありません。しかしながら、花いっぱい県民運動の展開により、「花の王国あいち」に対する県民の認知度は徐々に高まり 33.5%（2020）となっています（2020 年度県政世論調査）。

こうした中、花の購買が低調な 1～2 月に新しい花贈り文化を定着させるため、小売店などを中心として、大切な人に花を贈る「フラワーバレンタイン」に取り組んでおり、この他にも「敬老の日」、「いい夫婦の日」、「愛妻の日」などに、身近な人に花を贈る提案を行っています。



花の王国あいちPR



フラワーバレンタインプロモーション

### 第3 花き産業の振興のための施策に関する事項

#### 1 生産者の経営の安定

花き産業の振興を図るためには、意欲ある担い手の確保・育成や効率的な経営の実現のための生産基盤の整備、知的財産の保護と活用、生産者組織の活動支援などに取り組む必要があります。

##### (1) 経営体や生産者組織の育成強化

花き産地の維持・発展のため、意欲ある担い手の確保・育成と生産者組織の育成強化を図ります。

###### <主な取組>

- ・生産技術力の強化支援
- ・経営安定に向けた他品目への転換支援
- ・組織における研究、マーケティング活動等の活動強化支援
- ・生産者組織の統合・再編支援等
- ・農業大学校企画研修部就農企画科（農起業支援ステーション）と農起業支援センターにおける就農相談・支援
- ・多様な担い手の営農継続支援
- ・災害への備え、復旧に向けた各種助成制度や制度資金の活用支援



きく部会現地研究会

###### <県関係課、関係団体>

農業経営課、森林保全課、各農林水産事務所農政課・農業改良普及課、農業大学校、農業総合試験場、愛知県花き温室園芸組合連合会、愛知県緑化木生産者団体協議会、JA

##### (2) 生産基盤の整備

生産性の向上を図るため、各種助成制度・制度資金を活用し、施設の改修及び更新の支援や、スマート農業技術の導入を行うとともに、省力化を進め経営規模の拡大を推進します。

###### <主な取組>

- ・スマート農業技術の導入支援
- ・低コスト耐候性ハウス、省エネ設備等の環境制御技術の導入支援
- ・施設の改修及び更新支援

###### <県関係課、関係団体>

園芸農産課、農業経営課、各農林水産事務所農政課・農業改良普及課、農業総合試験場、愛知県経済農業協同組合連合会、JA



炭酸ガス施用効果の検討

### (3) 知的財産の適切な保護及び活用

県や生産者等が育成した品種の適切な保護と、差別化・ブランド化を図るため、育成者権、商標などの知的財産の活用を図ります。

#### <主な取組>

- ・生産者等への知的財産に関する啓発・情報提供
- ・生産者による差別化・ブランド化のための新品種の開発・PR支援
- ・生産に関する新技術の開発及び普及実用化の取組に対する支援
- ・県が開発した新品種や新技術の知的財産化の推進

#### <県関係課、関係団体>

園芸農産課、農業経営課、各農林水産事務所農業改良普及課、農業総合試験場、愛知県花き温室園芸組合連合会、JA

### (4) 収入保険、園芸施設共済等のセーフティーネットへの加入推進

自然災害や需要の落ち込みに伴う生産量の減少や価格の下落に備え、収入保険、園芸施設共済等のセーフティーネットへの加入を推進します。

## 2 生産性及び品質の向上の促進

競争力のある花き産業を振興するため、産学官連携を図りながら、品質や生産性を向上する技術の開発、マーケットインの視点に立ったオリジナル品種の開発による差別化・ブランド化、日持ち性など品質向上のための流通体制の改善などに取り組みます。

特に、品種開発を加速化するため、「花き振興法」に基づく種苗法の特例を活用していきます。

### (1) 新品種の開発・導入とブランド化の推進

産学官連携等により、マーケットインの視点に立った付加価値の高い新品種の開発・導入を推進します。

#### <主な取組>

- ・高品質、良日持ち性品種、生産性が高い耐暑性品種、新規需要を喚起するオリジナル品種等の開発及び導入推進
- ・関係者が一体となった品種のブランド化の推進

#### <県関係課、関係団体>

農業経営課、各農林水産事務所農業改良普及課、農業総合試験場、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県花き温室園芸組合連合会、JA



かがり弁ギクの花束

### (2) 生産技術の開発と導入推進

品質や生産性の向上に資するため、生産技術等の開発・普及に取り組みます。

#### <主な取組>

- ・高品質・高収量・低コスト・省力を可能にする生産技術の開発及び導入推進
- ・産学官連携や現場解決型研究による生産性及び品質の向上のための研究開発の推進
- ・現場解決型研究の推進

#### <県関係課、関係団体>

農業経営課、農業総合試験場、各農林水産事務所農業改良普及課、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県花き温室園芸組合連合会、J A、その他愛知県花きイノベーション地域協議会構成員など



補光用LEDライト

### (3) 流通施設の整備及び流通体制の改善

品質向上のためのコールドチェーンシステムの構築を進めるとともに、ICTの活用による物流業務の効率化を進め、市場流通コストの低減等を推進します。

#### <主な取組>

- ・産地における低温設備等の整備支援
- ・保冷車等によるコールドチェーンの実施
- ・バケット輸送の実施
- ・日持ち保証制度の活用推進
- ・出荷規格の統一などによる輸送効率の改善
- ・長距離輸送に適応した輸送環境の検討
- ・販売強化に向けた集荷体制の整備や集荷施設の集約支援
- ・鮮度保持の重要性についての生産、流通、小売関係者に対する普及啓発
- ・鉢物における物流の改善
- ・鉢物等の販路拡大のための集出荷方法の検討

#### <県関係課、関係団体>

園芸農産課、食育消費流通課、各農林水産事務所農政課・農業改良普及課、農業総合試験場、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知名港花き卸売事業協同組合、愛知豊明花き流通協同組合、名古屋生花小売商業協同組合、愛知園芸商組合、J A、その他愛知県花きイノベーション地域協議会構成員など

#### (4) 花きの加工に関する技術開発

消費者ニーズにあった花きの活用を推進するため、花束、フラワーアレンジメント等の装飾加工技術、花きを使った食品、日用品の加工技術の開発・向上等の取組に対して支援します。

##### <主な取組>

- ・花束、フラワーアレンジメント等の装飾加工技術の開発・向上に対する支援
- ・花きを使った食品、日用品の加工技術の開発等に対する支援

##### <県関係課、関係団体>

園芸農産課、食育消費流通課、名古屋生花小売商業協同組合、愛知園芸商組合、その他愛知県花きイノベーション地域協議会構成員など

#### (5) 育苗・苗供給体制の強化

県が開発した新品種等を円滑に生産者に供給するため、関係機関と連携して供給体制の強化を図ります。

##### <主な取組>

育苗・苗供給体制の強化支援

##### <県関係課、関係団体>

園芸農産課、農業経営課、各農林水産事務所農政課・農業改良普及課、農業総合試験場、愛知県花き温室園芸組合連合会、J A、種苗会社

#### (6) 産学官連携による技術開発と導入推進

##### <主な取組>

- ・産学官連携による新品種育成
- ・生産性及び品質の向上のための研究開発推進
- ・品質を保持するための梱包、包装資材の開発

##### <県関係課、関係団体>

園芸農産課、農業経営課、各農林水産事務所農政課・農業改良普及課、農業総合試験場、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県花き温室園芸組合連合会

### 3 輸出の促進

本県産花きは、2019年の北京国際園芸博覧会において、装飾展示や出品品種が上位の賞を受賞するなど国際的にも品質が評価されていますが、検疫や流通の問題等により、輸出が伸びない状況です。

今後、更なる需要拡大を図るためには、海外市場の獲得に向けた取組を行う必要があります。

##### <主な取組>

- ・国際園芸博覧会など国際的なイベントへの出展、コンテストへの参加支援
- ・商談会等での情報交換会とプロモーション活動の推進
- ・輸出用品種の選定、輸出に適した品目の生産など産地の対応強化支援

- ・コスト低減のための輸送方法等の調査・検討
- ・関係機関と連携した航空・船舶輸送に適した輸送方法及び鮮度保持技術の開発・改善推進
- ・輸出相手国の検疫条件緩和に向けた全国的な取組への参画
- ・市場・消費実態に関する情報の収集・提供



2019年北京国際園芸博覧会  
における愛知県展示

#### <県関係課、関係団体>

園芸農産課、農業経営課、食育消費流通課、各農林水産事務所農政課・農業改良普及課、農業総合試験場、森林保全課、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県花き温室園芸組合連合会、愛知県緑化木生産者団体協議会、愛知名港花き卸売事業協同組合、愛知豊明花き流通協同組合、名古屋生花小売商業協同組合、愛知園芸商組合、J A、その他愛知県花きイノベーション地域協議会構成員など

## 4 気候変動及び環境に配慮した適応策

近年、地球温暖化などによる気候変動により、花きの収量、品質の低下などが問題となっています。

そのため、高温に強い品種の開発や施設内の栽培環境を改善する技術等の確立、病虫害防除体系の確立に取り組む必要があります。

また、自然災害に対する備え、復旧に向けた各種助成制度や制度資金の活用を支援する必要があります。

#### <主な取組>

- ・ヒートポンプ、頭上散水、ミスト等を活用した栽培環境改善技術の確立推進
- ・高度環境制御技術の開発推進
- ・高温障害を回避・軽減するための遮光資材の導入や遮光技術の導入推進
- ・自然災害に対する備え、復旧に向けた各種助成制度や制度資金の活用支援【再掲】
- ・病虫害防除体系の確立



ヒートポンプの利用

#### <県関係課、関係団体>

園芸農産課、農業経営課、各農林水産事務所農業改良普及課、農業総合試験場、J A

## 第4 花きの文化の振興のための施策に関する事項

### 1 公共施設及びまちづくり等における花きの活用

花きには人を癒やす効果があり、その効果の発揮が期待される病院、社会福祉施設等における花きの活用や、本県に訪れる観光客等に対する「おもてなし」への活用を推進します。

さらに、花きには都市的地域の「ヒートアイランド現象」を緩和する働きもあり、公共施設やまちづくりにおける活用を推進する必要があります。

#### <主な取組>

- ・「花の王国あいち」シンボルマークの活用と定着
- ・公共施設等における花きの活用推進
- ・中部国際空港など主要施設におけるあいちの花の装飾展示
- ・県庁における「おもてなし花壇」の設置
- ・県産花きを用いた活動に取り組む「花の王国あいち」サポート企業の認定
- ・病院、社会福祉施設、商店街等における花きの活用推進
- ・公園整備等のまちづくりにおける花きの活用推進



本庁舎前花壇の装飾

#### <県関係課、関係団体>

園芸農産課、森林保全課、公園緑地課、各農林水産事務所農政課、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県花き温室園芸組合連合会、愛知県緑化木生産者団体協議会、愛知名港花き卸売事業協同組合、愛知豊明花き流通協同組合、名古屋生花小売商業協同組合、愛知園芸商組合、その他花の王国あいち県民運動実行委員会構成員など

### 2 花きを活用した教育及び地域における花きを活用した取組の推進

花や緑に親しみ・育てる機会を通して、子どもたちにやさしさや美しさを感じる気持ちを育む活動である「花育」は、幼少期の情操面の向上等が図られます。

また、地域活動においても、花きを介した世代間交流等により、地域のつながりを深めることが期待されています。

花育は将来の需要拡大に有効と考えられ、引き続き推進する必要があります。

#### <主な取組>

- ・あらゆる世代に向けた花育教室の開催
- ・花育ティーチャーの登録及び派遣
- ・フラワー・ブラボー・コンクール活動や全国花のまちづくりコンクールの推進
- ・花壇づくり等の花きを介した世代交流を伴う地域活動の支援



花育教室

#### <県関係課、関係団体>

園芸農産課、森林保全課、各農林水産事務所農政課、愛知県経済農業協同組合連  
合会、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県花き温室園芸組合連合会、愛知県  
緑化木生産者団体協議会、愛知名港花き卸売事業協同組合、愛知豊明花き流通協  
同組合、名古屋生花小売商業協同組合、愛知園芸商組合、J A、その他花の王国  
あいち県民運動実行委員会構成員など

### 3 日常生活における花きの活用促進

生け花、盆栽など花きに関する伝統と文化が地域の生活に深く浸透しており、こ  
れを普及させていくことは、心豊かな生活の実現に資することとなります。

本県では、2013年からあいちの花を暮らしの中に取り入れる「花いっぱい県民運  
動」を各種施策と連携しながら推進してきました。県政世論調査においても「花の  
王国あいち」の認知度は向上していますが、十分に浸透しているとは言えない状況  
にあり、花きの日常生活への定着や新たな花贈り文化の普及に今後も継続的に取り  
組む必要があります。

#### <主な取組>

- ・暮らしに花を取り入れる花いっぱい県民運動の展開
- ・家庭や職場に日常的に花のある生活の定着推進
- ・フラワーバレンタイン、ホワイトデー等の新たな花贈り  
文化の定着推進
- ・地域の伝統的な花や生け花等の花文化の普及
- ・花きの知識の普及推進



#### <県関係課、関係団体>

園芸農産課、森林保全課、各農林水産事務所農政課、愛知県経済農業協同組合連  
合会、愛知県花き温室園芸組合連合会、愛知県緑化木生産者団体協議会、愛知名  
港花き卸売事業協同組合、愛知豊明花き流通協同組合、名古屋生花小売商業協同  
組合、愛知園芸商組合、J A、その他花の王国あいち県民運動実行委員会構成員  
など

## 第5 花きの需要拡大のための施策に関する事項

### 1 花きの需要を拡大する取組支援

本県は1962年から連続で切り花等の産出額は日本一ですが、2020年の県庁所在地都市別の1世帯当たりの切り花の年間購入額は、5,604円で全国35位（1位福島市：16,667円）、園芸用植物の年間購入額は、2,230円で全国37位（1位津市：5,138円）となっています。

新型コロナウイルス感染症拡大により変化した新たな生活様式に、積極的に花きを取り入れられるよう花きの需要を拡大する取組を支援します。

#### <主な取組>

- ・オンラインや定期契約取引等による新たな販売体制の構築支援
- ・ホームユース市場に対応した生産・流通・小売間の連携強化
- ・SNSを活用した県産花きPR販売の取組支援
- ・観光業界、住宅やインテリア業界等の異業種との連携推進
- ・花きの知識の普及推進【再掲】

#### <県関係課、関係団体>

園芸農産課、農業経営課、各農林水産事務所農政課・農業改良普及課、農業総合試験場、森林保全課、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県花き温室園芸組合連合会、愛知県緑化木生産者団体協議会、愛知豊明花き流通協同組合、名古屋生花小売商業協同組合、愛知園芸商組合JA、その他愛知県花きイノベーション地域協議会など

### 2 イベントにおける花きの活用の促進

種類が豊富で品質の高い本県産花きをPRし、誰もが参加しやすいイベント等の開催や各種スポーツイベント会場での花きの活用により、無購買層や低購買層に花の魅力を伝える必要があります。

#### <主な取組>

- ・花を見て、触れて、購入できる県民参加型の「花と緑のイベント」の継続的開催
- ・東京オリンピックやアジア競技大会等での花きのおもてなしとPR
- ・各種行事や式典における会場の生花装飾等の花き活用



あいち花マルシェ2020

#### <県関係課、関係団体>

園芸農産課、農業経営課、各農林水産事務所農政課・農業改良普及課、農業総合試験場、森林保全課、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県花き温室園芸組合連合会、愛知県緑化木生産者団体協議会、愛知豊明花き流通協同組合、名古屋生花小売商業協同組合、愛知園芸商組合JA、その他愛知県花きイノベーション地域協議会など

## 第6 目標

1962年以降連続して花き（切り花等）生産日本一を誇る「花の王国あいち」にふさわしい花き産業の発展と花のある暮らしづくりを目指し、「花の王国あいち」をさらにパワーアップさせていくために、県、生産者、農業団体や流通、小売、消費団体、県民が連携して各種の取組を進めていきます。

こうした取組の効果が発揮されることを前提に2025年度（令和7年度）の目標を以下の3項目とします。

### ○ 花き産出額 581億円

うち 切り花等（切り花類、鉢もの類、花壇用苗もの類、球根類）：545億円  
花木等（花木類、芝類、地被植物類）：36億円

本県の花き生産は、1998年の産出額897億円をピークに減少傾向にあり、近年は500億円後半で推移しています。さらに2020年には、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、大幅に需要が減退したことにより産出額の減少も見込まれます。

そのため、生産から流通、加工、消費に至るまで、様々な施策に取り組むことにより、花き産出額を2018年の水準（578億円 切り花等：543億円、花木等：35億円）に回復させることを目指します。

### ○ 花き輸出金額 2億円

鉢物を中心に本県産花きの輸出が行われていますが、検疫や輸送コストの問題等により、輸出額は23,685千円（2019年）とまだ少ない状況です。

そのため、国際園芸博覧会など国際的なイベントへの出展や商談会等での情報交換会とプロモーション活動の推進等による海外への売り込み、輸出用品種の選抜、輸出に適した品目の生産など産地の対応強化支援等により、現状から約10倍増を目指します。

### ○ 「花の王国あいち」の認知度 50%

2020年度第1回県政世論調査（調査期間：2020年7月1日～20日、回答者数1,695人）において、農林水産業とのかかわりについて意識調査を行った結果、「花の王国あいち」の認知度は33.5%となっています。

花きには産地表示義務がないため、県内消費者段階ではどの花が本県産であるか分からないのが現状です。

そのため、「花の王国あいち」のシンボルマーク等を様々な場面で活用し、消費者に本県産花きのPRを行い、その結果、「花の王国あいち」に対する県民の認知度が50%になることを目指します。

<参考資料>

1 主要品目別の現状と課題及び重点推進方策

キク

1 生産出荷に関する主要指標

出典：農林水産省『花き生産出荷統計』（作付面積・出荷量）、『生産農業所得統計』（産出額）

		単位	2014	2015	2016	2017	2018	5か年平均	2018/2014
作付面積	愛知県	ha	1,279	1,339	1,302	1,293	1,288	1300.2	100.7
	全国	ha	5,007	4,990	4,801	4,758	4,663	4843.8	93.1
	シェア	%	25.5	26.8	27.1	27.2	27.6	26.8	108.1
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
出荷量	愛知県	百万本	460	481	467	464	453	465.0	98.7
	全国	百万本	1,573	1,581	1,514	1,504	1,424	1519.2	90.5
	シェア	%	29.2	30.4	30.9	30.9	31.8	30.6	109.0
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
産出額	愛知県	億円	208	235	230	216	216	221.0	103.8
	全国	億円	632	692	680	625	614	648.6	97.2
	シェア	%	32.9	34.0	33.8	34.6	35.2	34.1	106.9
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
販売価額(産出額/出荷量)		円/本	45	49	49	47	48	47.5	105.3

うち輪ギク

		単位	2014	2015	2016	2017	2018	3か年平均	2016/2014
作付面積	愛知県	ha	1,033	1,093	1,058	—	—	—	102.4
	全国	ha	2,627	2,631	2,503	—	—	2587.0	95.3
出荷量	愛知県	百万本	364	386	372	—	—	373.9	102.4
	全国	百万本	855	861	810	—	—	842.0	94.7

うちスプレーギク

		単位	2014	2015	2016	2017	2018	3か年平均	2016/2014
作付面積	愛知県	ha	210	213	210	—	—	211.0	100.0
	全国	ha	728	746	734	—	—	736.0	100.8
出荷量	愛知県	百万本	84	86	85	—	—	85.0	101.1
	全国	百万本	242	252	254	—	—	249.1	104.9

うち小ギク

		単位	2014	2015	2016	2017	2018	3か年平均	2016/2014
作付面積	愛知県	ha	36	34	33	—	—	34.2	93.5
	全国	ha	1,651	1,613	1,564	—	—	1609.3	94.7
出荷量	愛知県	百万本	12	10	10	—	—	10.3	82.7
	全国	百万本	476	468	451	—	—	464.9	94.6

2 主要産地

輪ギク

2018年産・園芸農産課調べ<

市町村	作付面積 (ha)	出荷量 (百万本)	産出額 (億円)
田原市	769	261	178
西尾市	15	5	3
稲沢市	14	5	2

小ギク

2018年産・園芸農産課調べ<

市町村	作付面積 (ha)	出荷量 (百万本)	産出額 (億円)
豊田市	11	4	1
稲沢市	7	3	1
新城市	3	0	0

スプレーギク

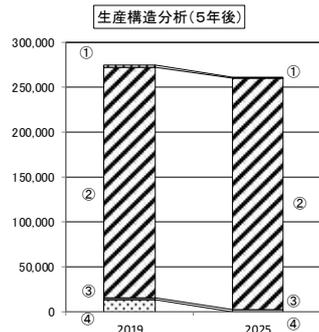
2018年産・園芸農産課調べ<

市町村	作付面積 (ha)	出荷量 (百万本)	産出額 (億円)
田原市	140	66	35
豊川市	47	17	10

3 生産構造見込み

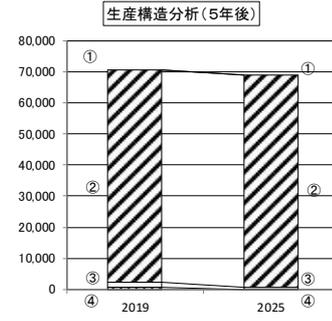
輪ギク

区分	人数 (人)	2019		2025	
		作付面積 (a)	出荷量 (千本)	作付面積 (a)	出荷量 (千本)
① 規模拡大見込みの農家	6	471	1,450	561	1,724
② 現状維持見込みの農家	737	27,846	257,682	27,846	258,055
③ 規模縮小見込みの農家	9	512	2,174	371	1,934
④ 離農見込みの農家	86	1,648	13,193	0	0
合計	838	30,477	274,499	28,778	261,713
現在からの増減	89.7%	—	—	94.4%	95.3%



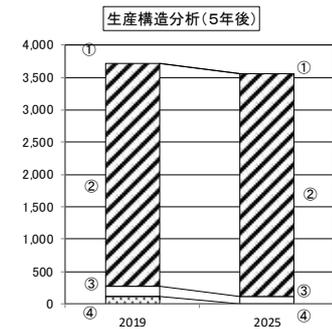
スプレーギク

区分	人数 (人)	2019		2025	
		作付面積 (a)	出荷量 (千本)	作付面積 (a)	出荷量 (千本)
① 規模拡大見込みの農家	0	0	0	0	0
② 現状維持見込みの農家	130	5,505	69,625	5,505	69,625
③ 規模縮小見込みの農家	0	0	0	0	0
④ 離農見込みの農家	5	98	964	0	0
合計	135	5,603	70,589	5,505	69,625
現在からの増減	96.3%	—	—	98.3%	98.6%



小ギク

区分	人数 (人)	2019		2025	
		作付面積 (a)	出荷量 (千本)	作付面積 (a)	出荷量 (千本)
① 規模拡大見込みの農家	0	0	0	0	0
② 現状維持見込みの農家	42	930	3,440	930	3,440
③ 規模縮小見込みの農家	1	40	160	30	120
④ 離農見込みの農家	3	34	122	0	0
合計	46	1,004	3,722	960	3,560
現在からの増減	93.5%	—	—	95.6%	95.6%



4 重点推進方策

区分	現状と課題	重点推進方策
全体	<p>&lt;輪ギク&gt; ○作付面積、出荷量ともに維持している。 ○全国の作付面積、出荷量は減少傾向であり、愛知県の全国シェアが増加している。</p> <p>&lt;スプレーギク&gt; ○作付面積、出荷量ともに維持している。 ○全国の作付面積、出荷量も維持しており、愛知県の全国シェアは維持している。</p> <p>&lt;小ギク&gt; ○作付面積、出荷量ともに減少している。</p>	<p>○経営安定に向けた他品目への転換や作付計画の変更 ○生産・流通・小売間の連携強化による、新たな消費提案やホームユース市場に対応する規格の提案 ○実需者ニーズにあった出荷量と規格による周年安定生産</p>
生産	<p>○輪ぎくは、5年後に農家数が89.7%となるが、作付面積は94.4%、出荷量は95.3%となり、1戸当たりの平均作付け面積は、36.4aから38.2a、出荷量は328千本から348千本へと増加することが見込まれる。</p> <p>○スプレーギクは、5年後に農家数が96.3%となるが、作付面積は98.3%、出荷量は98.6%となり、1戸当たりの平均作付け面積は、41.5aから42.3a、出荷量は523千本から536千本へと増加することが見込まれる。</p> <p>○小ギクは、5年後に農家数が93.5%となるが、作付面積は95.6%、出荷量は95.6%となり、1戸当たりの平均作付け面積は、21.8aから22.3a、出荷量は81千本から83千本へと増加することが見込まれる。</p> <p>○いずれも、現在よりも作付面積は減少することから、産地を維持発展させていくためには、1戸当たりの作付面積または出荷本数を増加させる必要がある。</p>	<p>○スマート農業技術の導入による高い生産性の安定確保 ○低温伸長・開花性を有する秋系品種の開発による生産コスト削減 ○冬季の生産性の向上技術の導入(LED補光、炭酸ガス施用、変温管理等) ○高温期でも開花が遅延せず奇形花の発生がない耐暑性を有する夏秋系品種の開発 ○夏季品質向上技術の導入(ヒートポンプ、遮光、細霧冷房等) ○新規性があり商品性の高い品種の開発、栽培技術開発 ○スプレーギクの病害虫抵抗性品種の開発 ○露地小ギクの省力化・生産齊一化技術の開発 ○集荷体制の整備や集荷施設の集約</p>
流通・販売	<p>&lt;輪ギク&gt; ○国内需要は減少傾向で単価も低迷している。 ○輸入切花は増え続けていることから、シェアを奪還する必要がある。</p> <p>&lt;スプレーギク&gt; ○販売価格はほぼ横ばいである。 ○用途が広く、安定した需要がある。 ○輸入品の品質が急激に上昇しており、価格も国産と同等か、国産を上回る場合もある。消費者ニーズを取り込みんだ生産・販売が必要である。</p>	<p>○市場のニーズに対応した新品種育成 ○年間予約相対取引量の増加 ○マーケットの需要に対応する計画的な生産体制の確立 ○観光業界、住宅インテリア業界等の異業種との連携</p>

# バラ

## 1 生産出荷に関する主要指標

出典：農林水産省『花き生産出荷統計』（作付面積・出荷量）、『生産農業所得統計』（産出額）

		単位	2014	2015	2016	2017	2018	5か年平均	2018/2014
作付面積	愛知県	ha	52	50	50	49	49	50.1	93.7
	全国	ha	378	365	347	336	325	350.2	86.0
	シェア	%	13.8	13.8	14.5	14.6	15.0	14.3	108.9
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
出荷量	愛知県	百万本	49	49	47	46	43	46.9	88.0
	全国	百万本	277	270	257	248	236	257.6	85.4
	シェア	%	17.8	18.2	18.4	18.4	18.3	18.2	103.1
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
産出額	愛知県	億円	26	26	25	25	23	25.0	88.5
	全国	億円	187	190	180	178	164	179.8	87.7
	シェア	%	13.9	13.7	13.9	14.0	14.0	13.9	100.9
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
販売価額(産出額/出荷量)		円/本	53	53	53	55	53	53.3	100.5

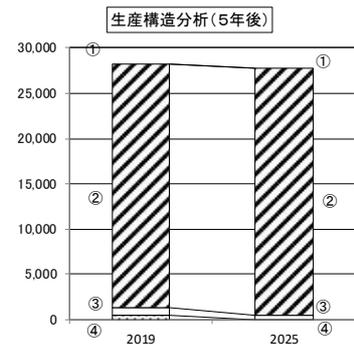
## 2 主要産地(生産上位3市町村)

2018年産・園芸農産部調べ

市町村	作付面積 (ha)	出荷量 (百万本)	産出額 (億円)
豊川市	19	15	12
西尾市	8	6	4
田原市	9	6	4

## 3 生産構造見込み

区分	人数 (人)	2019		2025	
		作付面積 (a)	出荷量 (千本)	作付面積 (a)	出荷量 (千本)
① 規模拡大見込みの農家	0	0	0	0	0
② 現状維持見込みの農家	66	3,063	26,937	3,063	27,226
③ 規模縮小見込みの農家	3	100	748	61	548
④ 離農見込みの農家	3	80	539	0	0
合計	72	3,243	28,224	3,124	27,774
現在からの増減	95.8%	—	—	96.3%	98.4%



## 4 重点推進方策

区分	現状と課題	重点推進方策
全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作付面積、出荷量、産出額は10%程度減少している。</li> <li>○全国の作付面積、出荷量は減少傾向で、愛知県の全国シェアは維持している。</li> <li>○需要の減少に伴い、国内生産が減っているおり、需要拡大が課題となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生産性の向上</li> <li>○需要拡大</li> <li>○オリジナル品種など、多様な消費者ニーズを取り入れた出荷体系の確立</li> </ul>
生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5年後に農家数が95.8%となり、作付面積、出荷量も減少する見込みである。</li> <li>○現在よりも作付面積は減少することから、産地を維持発展させていくためには、1戸当たりの出荷本数を増加させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スマート農業技術の開発による、高い生産性の安定確保</li> <li>○環境制御技術の開発</li> <li>○夜間冷房の効率的利用技術の開発</li> <li>○生産性の高いスタンダードタイプ、消費者ニーズに対応した品種の開発</li> <li>○品質向上技術の開発</li> </ul>
流通・販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>○販売単価はわずかながら上昇しているが、出荷量は減少している。</li> <li>○輸入にシェアを奪われぬよう、高い品質をPRして差別化を進める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○消費者への情報発信</li> <li>○オンラインや定期契約取引等による新たな販売体制の構築</li> <li>○観光業界、住宅やインテリア業界等の異業種との連携</li> </ul>

# カーネーション

## 1 生産出荷に関する主要指標

出典：農林水産省『花き生産出荷統計』（作付面積・出荷量）、『生産農業所得統計』（産出額）

		単位	2014	2015	2016	2017	2018	5か年平均	2018/2014
作付面積	愛知県	ha	51	50	50	48	47	49.1	93.7
	全国	ha	326	318	301	336	290	314.2	89.0
	シェア	%	15.5	15.8	16.4	14.3	16.3	15.6	105.3
	全国順位	位	2	2	2	2	2	—	—
出荷量	愛知県	百万本	49	47	43	48	43	46.1	87.6
	全国	百万本	282	271	252	336	234	275.0	82.9
	シェア	%	17.4	17.3	17.2	14.3	18.4	16.8	105.6
	全国順位	位	2	2	2	2	2	—	—
産出額	愛知県	億円	18	19	17	17	17	17.6	94.4
	全国	億円	123	126	117	111	103	116.0	83.7
	シェア	%	14.6	15.1	14.5	15.3	16.5	15.2	112.8
	全国順位	位	2	2	2	3	2	—	—
販売価額(産出額/出荷量)		円/本	37	40	39	35	40	38.3	107.8

## 2 主要産地(生産上位3市町村)

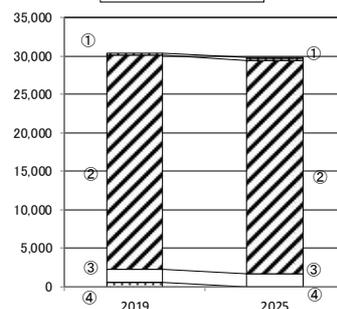
2018年産・園芸農産課調べ

市町村	作付面積 (ha)	出荷量 (百万本)	産出額 (億円)
西尾市	20	22	11
田原市	4	5	2
碧南市	3	3	1

## 3 生産構造見込み

区分	人数 (人)	2019		2025	
		作付面積 (a)	出荷量 (千本)	作付面積 (a)	出荷量 (千本)
① 規模拡大見込みの農家	1	34	357	37	389
② 現状維持見込みの農家	56	2,486	27,821	2,486	27,804
③ 規模縮小見込みの農家	6	182	1,675	165	1,590
④ 離農見込みの農家	3	57	590	0	0
合計	66	2,759	30,443	2,688	29,783
現在からの増減	95.5%	—	—	97.4%	97.8%

生産構造分析(5年後)



## 4 重点推進方策

区分	現状と課題	重点推進方策
全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作付面積と産出額はともに減少している。</li> <li>○全国の作付面積・出荷量も減少傾向で、愛知県の全国シェアは維持している。</li> <li>○全体の需要量ははやや拡大方向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生産性の向上</li> <li>○輸入切り花を凌ぐ高品質の生産</li> <li>○オリジナル品種など、多様な消費者ニーズを取り入れた出荷体系の確立</li> </ul>
生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5年後に農家数が95.5%となるが、作付面積は97.8%、出荷量は97.8%となり、1戸当たりの平均作付け面積は、41.8aから42.7a、出荷量は461千本から473千本へと増加することが見込まれる。</li> <li>○産地を維持発展させていくためには、1戸当たりの出荷本数を増加させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スマート農業技術の開発による、高い生産性の安定確保</li> <li>○施肥改善による障害回避法の開発、高収量・高品質を実現する植栽方法・仕立て法の開発</li> <li>○収穫機関を延長し国産の端境期をなくすための大苗生産技術の開発</li> <li>○高い収量性と切り花品質を持ち、良日持ち性及び萎凋細菌病抵抗性を備えた品種の開発</li> </ul>
流通・販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>○販売単価はわずかながら上昇しているものの、出荷量は減少している。</li> <li>○国内産の減少を上回るペースで輸入量が増えているため、その需要を取り込むよう、消費者ニーズを取り入れてブランド化・差別化を進める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○消費者への情報発信</li> <li>○オンラインや定期契約取引等による新たな販売体制の構築</li> <li>○観光業界、住宅やインテリア業界等の異業種との連携</li> </ul>

# 鉢花

## 1 生産出荷に関する主要指標

出典：農林水産省『花き生産出荷統計』（作付面積・出荷量）、『生産農家所得統計』（産出額）

		単位	2014	2015	2016	2017	2018	5か年平均	2018/2014
作付面積	愛知県	ha	210	198	184	178	179	189.6	85.1
	全国	ha	1,241	1,212	1,176	1,149	1,124	1180.4	90.6
	シェア	%	16.9	16.4	15.6	15.4	15.9	16.1	93.9
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
出荷量	愛知県	百万鉢	30	28	27	25	24	26.8	79.5
	全国	百万鉢	175	171	168	163	154	166.5	88.0
	シェア	%	17.1	16.6	15.8	15.6	15.4	16.1	90.3
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
産出額	愛知県	億円	132	128	129	128	120	127.4	90.9
	全国	億円	527	508	505	482	446	493.6	84.6
	シェア	%	25.0	25.2	25.5	26.6	26.9	25.8	107.4
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
販売価額(産出額/出荷量)		円/鉢	441	450	486	503	504	476.7	114.4

## 2 主要産地(生産上位3市町村)

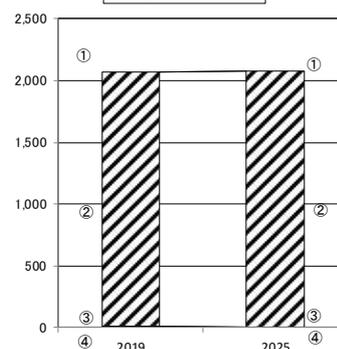
2018年産・調査農産課調べ

市町村	作付面積 (ha)	出荷量 (百万鉢)	産出額 (億円)
田原市	51	8	30
豊川市	13	2	6
愛西市	11	2	4

## 3 生産構造見込み

区分	人数 (人)	2019		2025	
		作付面積 (a)	出荷量 (千鉢)	作付面積 (a)	出荷量 (千鉢)
① 規模拡大見込みの農家	0	0	0	0	0
② 現状維持見込みの農家	30	998	2,060	998	2,075
③ 規模縮小見込みの農家	0	0	0	0	0
④ 離農見込みの農家	1	42	12	0	0
合計	31	1,040	2,072	998	2,075
現在からの増減	96.8%	—	—	96.0%	100.1%

生産構造分析(5年後)



## 4 重点推進方策

区分	現状と課題	重点推進方策
全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作付面積・出荷量ともに減少している。</li> <li>○愛知県の全国シェアは増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オリジナル品種、新しい品種、仕立ての工夫などによる需要の拡大</li> <li>○省力・低コスト化、魅力的な商品開発</li> </ul>
生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5年後の作付面積及び出荷量はほぼ現状維持の見込みであり、産地を維持発展させていくためには、1戸当たりの作付面積または出荷鉢数を増加させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スマート農業技術の開発による、高い生産性の安定確保</li> <li>○無加温栽培が可能な鉢物品目の選定及びびによる栽培技術の開発による燃料消費量削減・低コスト化</li> <li>○ヒートポンプ等を利用した高温対策技術の開発</li> <li>○中山間地域での新たな品目選定とその栽培技術の確立</li> <li>○輸出に対応できる栽培技術の開発、新規性があり消費者ニーズに対応した鉢物開発</li> </ul>
流通・販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単価は下げ止まり、回復基調となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○販売促進活動の充実強化</li> <li>○消費者への情報発信</li> <li>○トレードフェア等の活用による新たな商品提案</li> <li>○オンラインや定期契約取引等による新たな販売体制の構築</li> <li>○観光業界、住宅やインテリア業界等の異業種との連携</li> </ul>

# 観葉植物

## 1 生産出荷に関する主要指標

出典：農林水産省『花き生産出荷統計』（作付面積・出荷量）、『生産農業所得統計』（産出額）

		単位	2014	2015	2016	2017	2018	5か年平均	2018/2014
作付面積	愛知県	ha	95	100	92	90	89	93.3	93.4
	全国	ha	315	320	304	304	294	307.4	93.3
	シェア	%	30.3	31.1	30.3	29.7	30.3	30.3	100.1
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
出荷量	愛知県	百万鉢	22	22	22	22	20	21.5	90.0
	全国	百万鉢	43	42	43	43	41	42.4	95.1
	シェア	%	51.5	52.0	50.8	50.2	48.8	50.7	94.7
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
産出額	愛知県	億円	40	39	40	43	41	40.6	102.5
	全国	億円	119	113	118	125	122	119.4	102.5
	シェア	%	33.6	34.5	33.9	34.4	33.6	34.0	100.0
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
販売価額(産出額/出荷量)		円/鉢	181	177	184	198	206	189.4	113.8

## 2 主要産地(生産上位3市町村)

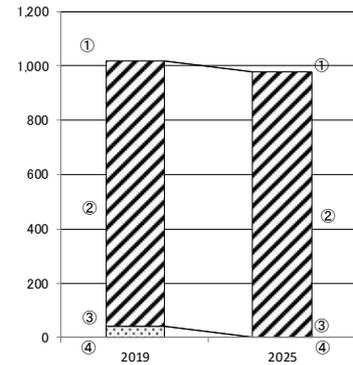
2018年産・園芸農産課調べ

市町村	作付面積 (ha)	出荷量 (百万鉢)	産出額 (億円)
田原市	15	3	10
西尾市	6	3	6
岡崎市	5	1	5

## 3 生産構造見込み

区分	人数 (人)	2019		2025	
		作付面積 (a)	出荷量 (千鉢)	作付面積 (a)	出荷量 (千鉢)
① 規模拡大見込みの農家	0	0	0	0	0
② 現状維持見込みの農家	17	586	977	586	977
③ 規模縮小見込みの農家	0	0	0	0	0
④ 離農見込みの農家	2	62	40	0	0
合計	19	648	1,017	586	977
現在からの増減	89.5%	—	—	90.4%	96.1%

生産構造分析(5年後)



## 4 重点推進方策

区分	現状と課題	重点推進方策
全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作付面積、出荷量ともに減少している。</li> <li>○愛知県の全国シェアは年次変動があるもののほぼ横ばいである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オリジナル品種、新しい品種、仕立ての工夫などによる需要の拡大</li> <li>○省力・低コスト化、魅力的な商品開発</li> </ul>
生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5年後の作付面積及び出荷量は現状維持の見込みであり、産地を維持発展させていくためには、1戸当たりの作付面積または出荷鉢数を増加させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スマート農業技術の開発による、高い生産性の安定確保</li> <li>○栽培技術の開発による燃油消費量削減・低コスト化</li> <li>○日持ち性向上や新規性があり消費者ニーズにマッチした鉢物導入及びその栽培技術の開発</li> </ul>
流通・販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単価は下げ止まり、回復基調となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○販売促進活動の充実強化</li> <li>○消費者への情報発信</li> <li>○トレードフェア等の活用による新たな商品提案</li> <li>○オンラインや定期契約取引等による新たな販売体制の構築</li> <li>○観光業界、住宅やインテリア業界等の異業種との連携</li> </ul>

# 洋ラン

## 1 生産出荷に関する主要指標

出典：農林水産省『花き生産出荷統計』（作付面積・出荷量）、『生産農家所得統計』（産出額）

		単位	2014	2015	2016	2017	2018	5か年平均	2018/2014
作付面積	愛知県	ha	49	48	48	47	46	47.7	95.1
	全国	ha	208	205	195	190	187	197.0	89.9
	シェア	%	23.5	23.5	24.6	24.9	24.8	24.2	105.8
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
出荷量	愛知県	百万鉢	4	4	4	4	3	3.6	95.8
	全国	百万鉢	16	16	16	15	15	15.4	90.6
	シェア	%	22.2	23.5	23.2	24.1	23.4	23.3	105.7
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
産出額	愛知県	億円	63	63	63	60	55	60.8	87.3
	全国	億円	312	333	348	364	353	342.0	113.1
	シェア	%	20.2	18.9	18.1	16.5	15.6	17.8	77.2
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
販売価額(産出額/出荷量)		円/鉢	1775	1676	1726	1695	1618	1697.8	91.2

## 2 主要産地(生産上位3市町村)

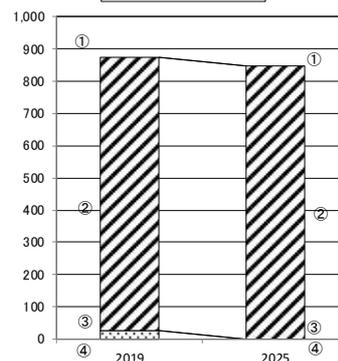
2018年産・園芸農産課調べ

市町村	作付面積 (ha)	出荷量 (百万鉢)	産出額 (億円)
豊橋市	11	1	21
西尾市	4	0	5
東海市	8	1	4

## 3 生産構造見込み

区分	人数 (人)	2019		2025	
		作付面積 (a)	出荷量 (千鉢)	作付面積 (a)	出荷量 (千鉢)
① 規模拡大見込みの農家	0	0	0	0	0
② 現状維持見込みの農家	16	796	845	796	846
③ 規模縮小見込みの農家	0	0	0	0	0
④ 離農見込みの農家	2	50	27	0	0
合計	18	846	872	796	846
現在からの増減	88.9%	—	—	94.1%	97.0%

生産構造分析(5年後)



## 4 重点推進方策

区分	現状と課題	重点推進方策
全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作付面積・出荷量ともやや減少している。</li> <li>○全国の作付面積や出荷量も減少しており、愛知県の全国シェアはやや増加している。</li> <li>○全国の産出額は、5年で約10%増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オリジナル品種、新しい品種、仕立ての工夫などによる需要の拡大</li> <li>○省力・低コスト化、魅力的な商品開発</li> <li>○ホームユース市場に対応する新商品の開発</li> <li>○輸出の取組強化</li> </ul>
生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5年後の作付面積及び出荷量は現状維持の見込みであり、産地を維持発展させていくためには、1戸当たりの作付面積または出荷鉢数を増加させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スマート農業技術の開発による、高い生産性の安定確保</li> <li>○贈答用の需要に対応できる出荷期拡大や高品質化の技術開発</li> <li>○日持ち性向上など輸出にも対応できる品質保持技術の開発</li> <li>○コショウランの冷房費の削減技術、炭酸ガス施用などの環境制御技術の開発</li> </ul>
流通・販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>○愛知県産の単価は下落している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○販売促進活動の充実強化</li> <li>○消費者への情報発信</li> <li>○トレードフェア等の活用による新たな商品提案</li> <li>○オンラインや定期契約取引等による新たな販売体制の構築</li> <li>○観光業界、住宅やインテリア業界等の異業種との連携</li> </ul>

# 花壇苗

## 1 生産出荷に関する主要指標

出典：農林水産省『花き生産出荷統計』（作付面積・出荷量）、『生産農業所得統計』（産出額）

	単位	2014	2015	2016	2017	2018	5か年平均	2018/2014	
作付面積	愛知県	ha	128	131	108	102	100	113.8	78.1
	全国	ha	1,501	1,490	1,451	1,490	1,378	1462.0	91.8
	シェア	%	8.5	8.8	7.4	6.8	7.3	7.8	85.1
	全国順位	位	2	2	3	3	3	—	—
出荷量	愛知県	百万本	62	60	49	44	41	51.0	66.1
	全国	百万本	695	667	649	610	598	643.8	86.1
	シェア	%	8.9	9.0	7.5	7.1	6.9	7.9	76.8
	全国順位	位	1	1	3	3	3	—	—
産出額	愛知県	億円	22	16	17	15	19	17.8	86.4
	全国	億円	310	302	319	306	300	307.4	96.8
	シェア	%	7.1	5.3	5.3	4.9	6.3	5.8	89.2
	全国順位	位	3	5	4	5	2	—	—
販売価額(産出額/出荷量)	円/本	35	27	35	34	46	35.6	130.6	

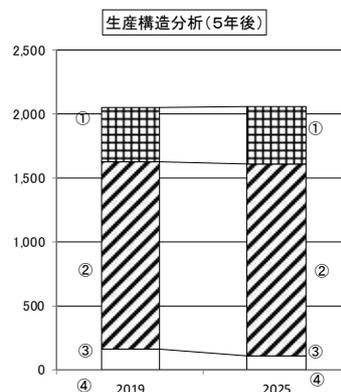
## 2 主要産地(生産上位3市町村)

2018年産・園芸農産課調べ

市町村	作付面積 (ha)	出荷量 (百万本)	産出額 (億円)
一宮市	8.4	8.7	6.0
春日井市	4.4	2.2	2.2
稲沢市	4.0	6.1	1.8

## 3 生産構造見込み

区分	人数 (人)	2019		2025	
		作付面積 (a)	出荷量 (千本)	作付面積 (a)	出荷量 (千本)
① 規模拡大見込みの農家	1	21	420	24	450
② 現状維持見込みの農家	10	230	1,470	230	1,500
③ 規模縮小見込みの農家	3	10	160	8	110
④ 離農見込みの農家	0	0	0	0	0
合計	14	261	2,050	262	2,060
現在からの増減	100.0%	—	—	100.4%	100.5%



## 4 重点推進方策

区分	現状と課題	重点推進方策
全体	○全国の作付面積や出荷量の減少率に比べ、愛知県の作付面積・出荷量は大きく減少している。	○新しい生活様式に合わせて需要拡大が期待できることから、消費者の多様なニーズを取り入れた新商品の開発。
生産	○5年後の作付面積及び出荷量はやや増加の見込みであり、産地を維持発展させていくためには、1戸当たりの作付面積または出荷鉢数を増加させる必要がある。	○スマート農業技術の開発による、高い生産性の安定確保 ○施設栽培では統合環境制御技術の導入 ○無加温栽培が可能な品目の選定
流通・販売	○単価は下げ止まり、回復基調となっている。	○販売促進活動の充実強化 ○消費者への情報発信 ○トレードフェア等の活用による新たな商品提案 ○オンラインや定期契約取引等による新たな販売体制の構築 ○観光業界、住宅やインテリア業界等の異業種との連携

## 2 愛知県花き振興計画策定検討会議設置要領

### (目的)

第1 愛知県の花きの生産振興及び需要拡大を図るための、愛知県花き振興計画（以下、「振興計画」という。）を検討することを目的に、愛知県花き振興計画検討会議（以下「検討会議」という）を設置する。

### (所掌事項)

第2 検討会議は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 振興計画の策定に関すること。
- (2) その他花きの生産振興及び需要拡大に関すること。

### (構成員)

第3 検討会議は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 花き・緑化木生産出荷団体の代表
- (2) 花き関係業界の代表
- (3) 県関係機関の代表
- (4) その他この検討会議が必要と認めた者

### (座長)

第4 検討会議に座長を置き、座長は愛知県農業水産局農政部園芸農産課長をもって充てる。

- 2 座長に事故あるときは、予め座長が指名したものが職務を代行する。

### (検討会議)

第5 検討会議は、愛知県農業水産局長が招集し、座長が主宰する。

- 2 座長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。
- 3 座長は、必要があると認めるときは、個別の案件を検討するために、専門的な知識等を有する者によるワーキンググループを招集することができる。
- 4 花の王国あいち県民運動実行委員会幹事会に検討結果を報告し、意見を聞くことができる。

### (庶務)

第6 検討会議の庶務は、愛知県農業水産局農政部園芸農産課において処理する。

### (雑則)

第7 この要領に定めるもののほか、検討会議の運営に必要な事項は座長が定める。

附 則

この要領は、平成27年6月3日から施行する。

この要領は、令和2年12月22日から施行する。

構成員名簿

所 属	役 職	備 考
愛知県農業林水産局農政部園芸農産課	課 長	
〃	担当課長	野菜・果樹・花き
〃 食育消費流通課	担当課長	市場・食育・食品表示
〃 農業経営課	担当課長	普及・技術・環境
〃 農業総合試験場企画普及部	室 長	広域指導室
〃 農業総合試験場園芸研究部	室 長	花き研究室
愛知県農林基盤局林務部森林保全課	担当課長	団体指導・緑化
愛知県都市整備局都市基盤部公園緑地課	担当課長	
愛知県経済農業協同組合連合会園芸部	部 長	
愛知県花き温室園芸組合連合会	事務局長	
愛知県緑化木生産者団体協議会	事務局長	
愛知名港花き卸売事業協同組合	事務局長	
愛知豊明花き流通協同組合	顧 問	
名古屋生花小売商業協同組合	副理事長	
愛知園芸商組合	理事長	